

平成 29 年度 千早赤阪村立学校園 評価報告書

学校園名（赤阪小学校）

校園長名（安尾 健也）

1. 教育目標

「一人ひとりの子どもが輝く元気な学校・ふるさと」

めざす子ども像：強く 正しく 朗らかに

- ・元気な子
- ・考える子
- ・やさしい子
- ・根気よく取り組む子
- ・手伝う子
- ・工夫し学ぶ子

2. 経営方針

(1) 確かな学力育成の具体的項目

- ・主体的学びに重点をおいた自主学習力の育成。
- ・聞きとる力、話しきる力、書く力、読解力、コミュニケーション力の醸成。
- ・思考・判断力を高める活動場面の設定。読書機会の充実。家庭学習の充実。

(2) 社会生活のマナー（人の交わり）の育成。

- ・気持ちのよい挨拶ができる子どもの育成。
- ・相手の立場にたつての言動ができる力を育てる場をつくる。

(3) 一人一人の体力づくりの計画と実践をする。

- ・体力の向上を図り、自ら運動の楽しさやすばらしさを体験し、生涯運動に親しむ習慣を身につけさせる。
- ・基本的な生活習慣の定着（食と睡眠と運動）

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		I 学力向上と教育力の充実
P	重点目標	<p>■基礎基本の充実を図り、豊かな生活経験を深めるため自然とふれあい、体験を重視し、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などを重視した学習指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自学自習力も含めた学力向上への取り組み(アクティブ・スクール) <ul style="list-style-type: none"> ・【基礎基本学力の習得】一人一人の子どもたちに確かな学力を身につける。 ・【主体的学びの創造】子どもが創る学習活動を授業内や家庭学習に入れる。 ・【自己肯定感の育成】家庭状況・日常生活を把握し、心の教育を進める。 ・【学習規律の徹底】行動に責任を持ち、正しく判断できる生活態度を育成する。 ・【コミュニケーション力の育成】児童相互の人間関係力を育成する。 ■小中連携に視点をおいた英語教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○特に本年度赴任した教員の英語学習スキルの定着 ○中学校を想定した英語科カリキュラムの編成 ■読書活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ○読書活動の充実と蔵書等の環境整備
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもが創り上げる学習活動(学び合い、深め合い、伝え合い) <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な少人数授業(習熟度別授業)実施するため授業展開の研究を行う。 ・校内研究テーマに沿って、学び合い、深め合い、伝え合う力を培うため、対話や振り返りを大切にした研究授業を継続的に実施するとともに主に活用力を培う問題づくりやその問題解決を想定した授業づくりの創造。 ・家庭学習充実を目標とした学習ノートへの取り組み ・学力向上取組みの一つとしての「校内漢字検定」の実施 ・赤阪スタンダードを取り入れた学習規律の徹底…定期的な実施確認 ○校内研修において、大学教授を招聘し、具体的な英語学習の進め方についての研修を位置づける。 ○来年度からの試行(英語科)に向けたカリキュラムやシラバスの組み換えを村内英語部会を中心に実施する。 ○読書活動の充実と蔵書等の環境整備…くすのきホール図書室や府立図書館との連携を積極的に行い、児童の図書環境を充実させる。
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもが創り上げる学習活動(学び合い、深め合い、伝え合い) <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブスクール(AS)初年度として、特に学力向上に向けた様々な取組みをAS担当者を中心に大阪府教育庁の指導も仰ぎながら、ほぼ計画通りに進めることができた。来年度は本年度の教育実践を基盤としながら、取組みを深化させていく必要がある。 ・平成32年度からの英語科実施に向け、学習内容をの精査等について研修を深めることができた。来年度からの試行において明確なカリキュラムを構築する。 ・児童のPCの操作活用力については、さらに具体的な学習実践を図る。 ・くすのきホール図書室や府立図書館との連携で、できるだけ多くの図書と児童が出会えるよう取り組んでいる。
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究テーマ及びアクティブスクールの活性化方針に基づいて、学力向上に向けた各取組みについて充実を図る。 ・特別な教科「道徳」について、特に評価内容や方法について明確に位置付ける。 ・英語科の本格実施に向けたカリキュラムやシラバスを中学校英語科履修内容を想定しながら確定させる。 ・学校全体として、児童のPC操作活用力を高める学習を再度検討を深め、教育活動に位置づける。

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅱ 豊かでたくましい人間性の育成
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ■ 計画的・継続的に全職員が子どもの内面にふれる指導の徹底を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童を取り巻く様々な環境についての把握 ○ 自分の行動に責任をもち、自ら考え、正しく判断できる生活態度の育成 ○ 人間関係力の育成に視点をあてた特別活動・課外活動等の指導 ○ 児童の様子などについての全教職員の情報共有をもとにした指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援を要する児童に係る個別ケース検討会議の一層の充実 ■ 道徳的実践力を高め、人間性豊かな児童の育成を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別な教科としての道徳についての学習内容の検討 ■ 郷土学習の推進を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校全体としてのカリキュラムの整理 ○ 学習教材の作成
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達や生活などで支援を要する児童については、SSWやSC、関係機関との連携を密にケース会議等を設定し、情報の共有及び支援方策検討を行う。 ・ 道徳や特別活動、学級活動や学校行事において、自分の行動に責任をもち、自ら考え、正しく判断できる力を培うことを明確にした活動を充実させる。 ・ 発達関係については、府立支援学校の支援により、学習環境を整えたり、自尊心の高揚やコミュニケーションスキルの育成をめざしたりする活動の実施。 ・ いじめ不登校対策委員会や職員会議による児童一人一人の情報について共有するとともにきめ細かな対応を推進する。 ・ 研究授業や道徳週間を通した道徳実践研究 ・ 道徳と他教科関連等を含めたより具体的指導カリキュラムの作成 ・ 郷土学習を意識した教育カリキュラムの検討（3年地域 6年歴史など）
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題事例には、府立支援学校との連携を密にとるとともに、校内において個別ケース会議を積極的に開催することができた。 ・ 発達支援や生活支援等、様々な支援について、保護者との連携を基本とし、学校体制として具体的な取り組みを進めることができた。 ・ 道徳週間を位置づけ、研究授業とともに道徳への職員の研修を充実させることができた。資料等の扱い方について、全体でより一層協議を深める必要がある。 ・ 郷土学習への取り組みについて、村の公教育において学習内容の幅を広げるとともに系統性を模索することが必要である。
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケース会議実施に伴う体制をより明確に行い、教職員の周知徹底を図る。 ・ コミュニケーションスキル（人間関係づくり）を高めるためのカリキュラムをできるだけ多くの学年で実施し、その活用や効果について検証を深める。 ・ 道徳の授業を研究授業を通して、より充実させるとともに、道徳週間や道徳月間の設定等の取り組みにより、教職員のスキルアップだけでなく保護者や地域への啓発も推進する。 ・ 道徳の評価について、更に協議を深め、来年度からの評価体制を整える。 ・ 郷土学習カリキュラム要素となる学習活動の創造やカリキュラム上の位置づけについて研究を深める。

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 安全安心な学校づくりの推進
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ■自分の命は自分で守るという観点から、自ら安全に行動できる児童の育成を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ○安全教育行事を計画的に実施する。 ○外部専門機関との連携を図り、活用する。 ○登下校時、校内外の安全指導を充実させる。 ■危機管理マニュアルを見直し、防災、防犯研修等を実施する。 ■通学路及び校区内危険個所を徹底把握する。 <ul style="list-style-type: none"> ○危険個所に特化した校区地図の作成及び対応策の検討) ■個別ケース支援を充実するとともに、SC、SSWを効果的に活用する。
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ■自分の命は自分で守るという観点から、自ら安全に行動できる児童の育成を進める。(特に学期始めや終わりでの児童への啓発・防犯ブザー点検) ■危機管理マニュアルを継続的に具体的な見直しを図り、防災、防犯研修等を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・安全教育行事、特に、火災、地震、不審者対応についての避難訓練等を計画的に実施する。 ・防災研修において、避難所等での対応について研修を実施する。 ・併設する幼稚園との合同避難訓練を実施し、具体的な方法や課題について、幼稚園職員と協議を深める。 ・警察署の協力のもと、不審者対応や交通安全についての教室を実施する。 ・登下校班への継続的な指導及び登校時の児童の様子把握 ・子ども安全見守り隊への支援要請 ・定期的な危険個所への教員による安全確認及び防犯ブザー点検 ■通学路及び校区内危険個所を徹底把握する。 <ul style="list-style-type: none"> ・PTAによる危険個所への設置看板の補修及び新規設置 ・教職員での通学路や危険個所を確認するための地図作成及び活用 ■個別ケース支援を充実するとともに、SC、SSWを効果的に活用する。 <ul style="list-style-type: none"> ・虐待事案等の早期発見のための教職員の意識の高揚（報告の徹底） ・様々な情報を共有できるシステム作り
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取り組み計画については、概ね達成することができた。 ・通学路や地域の様子については、随時新しい情報管理や共有が必要である。 ・不審者対応については、今後、様々なケースを想定した訓練が必要である。 ・避難訓練については、基本的な訓練内容は十分に達成できているが、より一層、起こりうる状況を想定した訓練が今後も求められる。 ・虐待事案等への情報把握、発信については、今後も教職員の更なる意識高揚も含め、研修が必要である。把握対応システムの構築については検討を続ける。
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路、危険個所に係る様々な地図の作成及び共有は進んできているが、活用方法については今後も検討が必要である。 ・教職員合同による校区探索 ・不審者対応のより具体的なマニュアルの作成と教員の共通理解 ・さらに様々な状況を想定した訓練の実施（休み時間、避難経路の変更 など） ・虐待事案に係るケース会議開催までの具体的なシステム化の作成及び教職員研修の実施

4. 教育自己評価

【教職員による評価】

本年度の学校教育自己診断における学校アンケート（教職員）において、昨年度比較を参考に、報告します。

（肯定的：「そう思う」「だいたいそう思う」 否定的：「あまりそう思わない」「思わない」）

アンケート項目：「教育活動に関するもの」（38項目） 「学校経営に関するもの」（32項目）

■全項目(70)中、肯定的な回答は41項目で100%でした。また、残りの項目でもほぼ80%以上でした。

■全体的に回答の割合としては、全70項目中18項目で肯定的回答が増え、16項目で「減」という結果でした。

「増」「減」のそれぞれの顕著な項目について分析します。

（肯定的回答が増）

- ・「事故、事件、災害等に対する迅速かつ適切な対応、役割分担の明確化」

様々なケースに対するマニュアル的な対処については、詳細内容を十分に考え、対処方法を職員で協議し共通理解に努めてきました。実際に起きた場合には、なかなかその通りには進まず、その時の判断に委ねられる場合も多いですが、できるだけ様々な状況を想定し、対応できるよう、今後も研修を深めていきます。

- ・「道徳の時間の確保、人間としての生き方に関わる多様な指導方法の工夫改善」

昨年度からの道徳週間の設定も安定し、道徳の授業について教員が参観する機会が増えてきました。それにより、指導方法などについても情報交換や話し合う場面が増えてきたことが、肯定回答の増の要因であると考えます。

- ・「公文書の收受、発送、保管に対する管理」

教頭、事務を中心に文書管理のシステム化が充実してきました。単に管理だけでなく、供覧システムも明確になり、様々な教育に関する情報を共有することができています。

（肯定的回答が減）

- ・「在日外国人に対する偏見や差別のない社会をめざしての主体的な生き方学習への工夫」

この項目は毎年約60～70%程度です。本校の人権教育のカリキュラムとして学習活動は行っていますが、学習による人権意識の高揚を、生き方学習へつなげていく段階がまだまだ充分でないと感じます。今後、研修等を深めながら取り組んでいきたいと思えます。

- ・「図書室を読書指導や学習指導の場としての有効活用」

アンケートにおける教員の提言の中にも図書室の活用についての課題がありました。蔵書数がまだまだ充分でなく、くすのきホールの図書室や府立図書館と連携もとったりしていますが、学校の図書室の利用という点で、来年度に向け、本校の教育課題の一つとして考えていきます。

- ・「生活指導において、関係諸機関との緊密な連携」

生活指導上の関係諸機関を必要とする事案が生じていない状況ですが、様々な状況を想定した上での連携体制をしっかりと構築する必要があると思えます。危機管理の一つでもありますし、他の対応マニュアルと同様、明確に構築していきたいと思えます。

【外部アンケート等】

■学校教育自己診断 保護者アンケート（別紙①のとおり）

■保護者を対象とした授業に関するアンケートでは、「興味・関心・意欲の向上」「学習内容の習得」「個の状況に応じた支援」「望ましい学習集団の育成」「生徒への適切な評価」の視点で行い、指導者個別の結果を分析し、今後の指導に役立てることができた。

5. 学校園関係者評価

■ P T Aや地域の方々から、学校行事や学習の取組み、地域での子どもたちの様子などについて、随時、様々な評価をいただいている。また、学校アンケートにおいて保護者の方から、算数科の少人数指導や「赤阪小学校を改善していくための提案」として、ご意見をいただいている。

- ・少人数指導については、「とてもよい」「よい」という肯定的意見がほぼ 100%であり、今後も続けてほしいという意見が多い。ただ、分け方やねらいについての質問もあった。(少人数指導のねらいや方法について、まだまだ周知が必要である。)
- ・マラソン大会や金剛登山を取り入れてほしい。(金剛登山は、現在は3年に1回)
- ・自主学習用の問題プリントなどの取組みがあれば良いと思う。
- ・学校からの配布プリントが多すぎる。内容によって省略などができないか。
- ・年度が変わった4月の行事予定をもう少し早く知らせてほしい。
- ・水泳の授業は、学校のプールを利用する方が良いと思う。
- ・元気アップカードについて、あまり必要性を感じないです。
- ・遊び時間の防寒着の着用を認め、着脱などについては、子どもたちに判断させるとともに、そのような力も身につけてほしい。
- ・経験の少ない先生方へのサポート体制をしっかりとしてほしい。
- ・先生方の休日出勤を見かけるが、休日は先生もリフレッシュされた方が良いと思う。
- ・学校のトイレの不衛生が気になる。改善の方向を考えてほしい。
- ・HPを見るのが楽しみ。よく更新されていて嬉しい。
- ・楽しく学校へ行っており。たくさん話もしてくれる。
- ・親の送迎が多くなってきたように思う。少し過保護な面を指導してほしい。親の立ち合いがないと校庭開放できない仕組みも考えてほしい。

■ 専門的な外部支援者（S S W、支援学校関係者、大学関係者など）からも児童支援の取組みについて評価をいただいている。

- ・英語教育については、赤阪小は既に実践を積み重ねてきているので、検討してきた時間設定やカリキュラムに基づき、平成 32 年度の完全実施に向け、平成 30,31 年度は試行実施する必要がある。
- ・専門的な外部支援者や関係機関との連携や教育相談の体制への取組みがたいへん速やかである。
- ・ケース会議が積極的に実施されており、子どもたち一人一人の支援に効果的である。
- ・気になる児童への情報共有が早い段階でもたれているので、未然防止も含め、個別支援が充実している。
- ・具体的な支援方策については、教職員全体での確認や共通理解を今後も継続させていくことが必要である。
- ・支援学級や通級指導教室などを通じて、きめ細かな指導体制が充実している。

6. 第三者評価

○特に「第三者評価委員会」というかたちでの評価はいただいていない。